Governor's MONTHLY LETTER 2021 4

Rotary District 2750

Rotary Opens Opportunities
ロータリーは機会の扉を開く

ガバナー月信　4月号

Governor's Message

国際ロータリー第2750地区
2020－21年度ガバナー
福原　有一

唯一生き残るのは、変化できるものである

4月は入園式、入学式、入社式と若い人たちにはお祝いの月ですが、このコロナ禍ではバーチャル対応になるのでしょうか。私のような高齢者にとっては特別な月では…と思っていましたが、そういえばワクチンの予防接種がスタートですね。しかしワクチン接種を担当する河野行革担当相がワクチン供給は限定的とも話されていますから、私にまで回ってくるのはいつになるのかわかりません。

さて「唯一生き残るのは…」は19世紀初頭のイギリスの自然科学者チャールズ・ダーウィンの進化論からの名言です。「生き残る種とは、最も強いものではない。最も知的なものでもない。唯一生き残るのは、変化できるものである」というのです。コロナ禍で私たちは生活様式や、働き方も変えなければなりませんでした。しかしそれは生き残るための進化に結びついているのでしょうか？　働き方改革は在宅勤務によりIT化が進むなかで生産性を向上させたとエコノミストは記述しています。またIT化されると性差がなくなり、男女平等が進むとも言われています。多方面に変化と進化は及ぶのでしょう。まだまだ始まったばかりです。

さて、このコロナ禍でもさらにロータリー活動を活発化しなければならない領域があります。それは医療格差の問題です。最近話題に上るコロナワクチンの供給についても、先進国とそれ以外の国との格差が問題視されています。私たちロータリーは長年にわたって、貧しい国の母子を守るべく予防接種、出産キットの配布、移動クリニック、識字率向上に向けて活動してきました。その中での新型コロナウイルスのパンデミックです。予防可能な原因で母と子が命を落とすなどあってはならないと私は考えています。今月は「母子の健康月間」に当たります。国内の奉仕活動で言えば、貧困から食事をとれない子供へも食事を提供する“こども食堂”への支援、そして医療従事者へのマスクの提供などは大きな反響がありました。これからも継続して活動を続けていきたいと思います。

ところで、最近ニュースで取り上げられているのは、「ワクチンはもっと早く国産化できないのか？」という話題です。この遅れは日本の医療分野は進んでいると思っていた私には意外でした。世界中の生物学者は、ウイルスと人間は一定の確率で出合い、例えば6世紀の天然痘、14世紀のペスト、20世紀のスペイン風邪の新型インフルエンザ、そして今日の新型コロナウイルスというようにパンデミックは必ず起きると主張してきました。日本では1950年以降、行政が率先して上下水道やごみ収集の仕組みを整え、地域住民が清潔な生活環境を作り、疾病や感染症の減少という成果につながりました。一方で、感染症という研究対象が減った結果、公衆衛生学の分野でウイルスを専門とする研究者が減少し、それが研究を遅らせた一因だとも言われています。

感染症の脅威は続きます。これからは外国任せにせずに、日本でもワクチンや治療薬の研究・製造をしっかりできるようにすべきです。今、ワクチンについては、製造に成功した国、ワクチンの供給を受ける国、そして費用の問題でワクチンの供給を受けられない国、大きな格差ができつつあります。それぞれの国には、コロナの医療従事者、感染で苦しんでいる人、感染におびえている人など、どの国にも新型コロナウイルスと闘う人々がいます。私たちは、病気や教育の格差のない世界を望み、それを実現することに努力しています。もし今どこかの国で、画期的な新型コロナウイルスの治療薬の開発ができたら、その製造方法について世界中の研究設備の整った製薬会社へ情報提供が行われる、そして遅延なく生産ができる、そんな世界を望んでいます。

なんだか妄想が膨らみました。慶応大学教授でヤフーCSOの安宅和人氏は著書の「シン・ニホン」の中で妄想が未来を作ると書いておられるし、脳学者の茂木健一郎氏も「妄想力」という本を出されています。どうやらこれからは妄想の豊かな人が役に立つ世界になり、そして大切にされるらしいですよ。それも妄想でしょうか？

「私のバリアフリー・マインドシリーズ」⑨

ＰＢグループの運営と「バリアフリー・マインド」

パシフィックベイスングループ ガバナー補佐　坂元　吉裕（グアムサンライズＲＣ）

私がＰＢＧのガバナー補佐の任をお引き受けして以来、残すところ4か月を切りました。その間「バリアフリー・マインド」について、私どものグループが持つ特異性との関連で絶えず考え続けてきました。私共ＰＢＧには、東西南北の広大な地理的広がり、時差が3時間もある時間的な空間、そして4つの違った政治形態があります。さらには、人種、言語、文化、生活習慣の違いや、日本では考えられない程の経済格差も存在します。これ程の特異性を内蔵したグループを、第2750地区は「バリア」の多い集団と捉えるか、または、可能性を秘めた「バリアフリー」の未完成の集団と捉えるかです。皆様はどうお考えでしょうか?

今から48年前、1973年3月にグアムＲＣ、サイパンＲＣ、タモンベイＲＣの3クラブが第2750地区の前身である第358地区に所属することとなりました。あと2年もすると、その可能性を秘めた?未完性の集団が伝統のある第2750地区で50歳を迎えることになります。当時の地区役員の方々がどういう思いで私共の加入を捉えていたかを計り知ることは、今となっては非常に難しいことと思います。一方で、私共ＰＢＧの過去、そして現在の会員一人一人が日本の第2750地区に所属することへの名誉、特権、恩典、意義など、さまざまな可能性について真剣に考え、期待に応えてきたかどうかが今問われています。

これまで歴代のガバナーの皆様が、ＰＢＧにとって良いと思われることを積極的に推進され、各地区委員会の皆様からも、ガバナーの方針を踏まえたさまざまな企画やプログラムを通して支援していただいております。また、補助金を使った地域社会に根差した数々の素晴らしいプロジェクトも成功させてきましたし、ＰＢＧフレンドシップ奨学金のおかげで、多くの優秀な卒業生を輩出しています。今一つうまく機能していませんが、「グループ・フォー・ワン」も大切なプログラムだと思っています。さらに、地区内で、今後もっと姉妹クラブ、友好クラブが増えることを願っています。

本年度私がガバナー補佐となった際、任期中にやろうと思った目標があります。地区Hand Bookに掲載されていますが、「グループの現状を把握し、内から出てくる声・意見に丁寧に耳を傾け、…グループが一致団結して、時代に即した持続的かつ健全なクラブ・グループの運営・維持ができる基礎をつくります。…一方、長期的な計画の立案、遂行、フォローアップ等の弱点を“報連相”を取り入れスムーズなグループ運営を行う…」ことです。

昨年の今頃から深刻になった新型コロナウイルス感染拡大への懸念に伴い、新年度のミーティングの開催もままならず、スタートは多難でした。6月にＰＥＴＳ（会長エレクト研修セミナー）を行い何とか新年度をスタートすることができました。幸い、Zoomのおかげで、これまでグアムのクラブ会長のみで行われていた会長会議も、今年度からは全クラブの会長及び出席できる幹事、またローターアクトの会長も参加し、これまであった物理的な「バリア」が大幅に解消されました。毎月行われる会長会議を通し、各クラブの活動内容を把握するほか、ガバナー事務所や各委員会からの情報もできる限り共有することで風通しも良くなり、クラブ間の団結も一層増したことは言うまでもありません。さらに、真摯で積極的なクラブ運営をめざすクラブ会長に恵まれ、コロナ禍の進展にもかかわらず、それぞれの趣向を凝らして、グアムの場合はジョイントで、グアム以外のクラブはそれぞれの地域で、数々の救済プロジェクト等の活動を行なってきました。

他方、もう一つの課題である計画の立案、遂行、フォローアップ等については問題が残ります。これまでＰＢＧとガバナー事務所・地区委員会への報告と言うと、毎月提出する例会の出席報告書などに限られたものでしたが、今年度は私が欲張ったせいか、各委員会からのアンケートなども加わり、ボリュームが一挙に増えました。そのため、数多くのクラブが提出期限を過ぎても回答がないケースが多々ありました。“報連相”を徹底するためのフォローアップの連続でした。「バリア」を低くする活動でもあります。地区各委員会の皆様が、フィードバックした回答を基に素早く報告書を作成しお送りいただくので、ＰＢＧのメンバーも、少しずつではありますが、アンケート等への理解と、その重要性に気が付き始めているようです。

個人的には、ガバナー事務所から送られてくる各種のお知らせ、Zoomで参加した役員会議や委員会、さらには研修会・セミナー・協議会などを通して、これまでにない情報に触れることができました。その結果これまで、ＰＢＧが知らなかった事、参加できなかった事も数多くあった事を知り、「言葉のバリア」の問題と今まで以上に真剣に取り組んでいこうと思っています。

以上のことがらについて、当初の目的である基礎固めはできつつあると感じていますが、来年度のガバナー補佐にもしっかり引き継ぐことにしています。それと同時に、せっかくできつつある地区との繋がりを生かして、私も地区とＰＢＧ間の橋渡しに引き続き取り組む覚悟です。

第2750地区で、まもなく50年の歴史を迎えようとするＰＢＧは、Feed（物を与える、育てる、情報などを提供する）される側としての一方通行から、Feedbackできる実力を少しずつ蓄えて、第2750地区の真の一グループとして認められるよう「バリアフリー・マインド」を常に意識しながら成長すべきだと考えています。ＰＢＧの運営に対し、皆様のご支援を引き続きよろしくお願い申し上げます。

「母子の健康」のプロジェクトは、母子の命を救う

ロータリー財団委員会・補助金委員会 委員長　島谷　惠介（東京世田谷ＲＣ）

ロータリーの6つの重点分野（2021年7月より7つの重点分野）の中で、「母子の健康」は予防により生命を守ることができる分野です。にも関わらず世界では毎年590万人もの5歳未満の子供が命を落とし、出産で多くの母親が亡くなっています。原因は国に適切な設備がなく居住する地域に十分な医療体制もないためです。このように、その国でできない、あるいは整備に時間のかかる分野では、ロータリーの力が必要とされています。

● 母子の健康の目標

「母子の健康」の重要なポイントは、ロータリーの尽力により幼くして亡くなる子供たちや出産時に命を落とす母親をなくすことであり、最も重要なプロジェクトのポイントでもあります。
「母子の健康」におけるロータリーの目標の中で

- **5歳未満の幼児の死亡率と罹患率の削減。**
- **妊婦の死亡率と罹患率の削減。**
- **より多くの母子に対する基本的な医療サービスの提供**

は特に重要度が高いものであり、医療機材等のハード面と医師技術の提供というソフト面を実現する必要があり、他のプロジェクトと比較してもより多くの資金が必要とされます。ロータリー財団では、グローバル補助金を通じてこのような規模の大きなプロジェクトを支援しており、世界中で補助金を活用したプロジェクトが実行されています。

●「母子の健康」プロジェクトの事例（2021年2月 My Rotary より）

1. 世界で最も母子の死亡率の高いハイチにおけるプロジェクト

ハイチは、西半球で母子の死亡率が最も高い国です。ここでは医療ボランティアや助産師が僻地に住む母子に医療を提供できるように医療機器を搭載したジープが寄贈され、現地で臨時の医療施設が開設されました。
YouTubeに寄贈されたジープと医療活動が動画で紹介されています。
https://www.youtube.com/watch?v=eIT2WL3QDc8&feature=youtu.be

2. ブラジルの僻地に保育器を寄贈し新生児の命を救う

ブラジルでは、ブラジルと姉妹都市関係にある中津川市（岐阜県）の2つのロータリークラブが協力し、ブラジルの僻地に保育器やビリルビン測定装置、ベビーベッド、血圧・心拍数モニター、新生児黄疸光線治療器等も寄贈し、さらに住民を対象に出産前ケアのワークショップを推進し、毎年220名の新生児の命を救っているということです。このプロジェクトは、総額1,900万円のグローバル補助金プロジェクトとして実施されました。

この事例の詳細は、下記のサイトに紹介されています。
https://www.rotary.org/ja/rotarians-save-newborns-brazil

▲ 医療機材を運ぶ移動クリニックとなるジープ

▲ 寄贈された保育器等の機材

● ロータリーの多面的な支援と活動

「母子の健康」では、感染症の予防接種、医療を提供する移動クリニック等のハード面と、母子感染の可能性のあるHIV予防に関する、あるいは母乳による授乳で母親から乳児に影響する喫煙等のリスクに関する教育などのソフト面を組み合わせ、あらゆる方法で母子の健康を推進しています。

ロータリーは予防可能な原因で母と子どもが命を落とすことなどあってはならないと考え、すべての母子が質の高い医療を受けられ、そして、出産で命を落とす母親がいなくなることを目指しています。ロータリー財団では、これからも多くの母子の命を救うために、補助金を通じて支援してまいります。

第2750地区ではこの分野での適当なプロジェクト例がなかったため、世界で行われた代表的なプロジェクトをご紹介し、あらためて「母子の健康」プロジェクトの目的やその実行における生命を救うという成果に関してロータリーの役割をご紹介させていただきました。

地区チーム研修セミナー報告 ｜ 開催日：2021年3月9日（火）

2021-22年度地区 幹事　河村　勝久（東京立川こぶしＲＣ）

新宿京王プラザホテルにて、新型コロナウイルスによる感染防止策をとり、
ホテル安全基準ディスタンスと入室人数制限を守りセミナーを開催いたしました。

13：30　開会点鐘

司会進行：研修委員会 小林　富佐子（東京目黒RC）・盛　洋子（東京目黒RC）

- WEB国際協議会報告：三浦　眞一 ガバナーエレクト
- 地区方針・地区重点目標・地区組織説明：三浦　眞一 ガバナーエレクト
- 地区役員の役割と責務　講演：大槻　哲也 次期地区研修リーダー
- 8グループ次期ガバナー補佐決意表明
- 地区一般会計説明：島田　さゆり 次期地区財務委員長
- 次期常設委員会委員長 活動計画表明：会員委員会、青少年奉仕委員会、奉仕プログラム委員会、公共イメージ委員会、米山記念奨学委員会
- 次期直轄委員会委員長 活動計画表明：ロータリーファミリー支援委員会、地区大会実行委員会、国際大会推進委員会
- 総括：大槻　哲也 次期地区研修リーダー

16：30　閉会点鐘（参加者108名）

懇親会は、人数制限した円卓に透明隔板で区画した感染防止対策を施し、実施いたしました。

17：00　開会

司会進行：地区幹事 斎木　修次（東京銀座新RC）・石川　和子（東京中央新RC）

- 開会あいさつ：三浦　眞一 ガバナーエレクト
- 乾杯：大槻　哲也 次期地区研修リーダー
- 委員会紹介
- 閉会あいさつ：富澤　為一 ガバナーノミニー

19：30　閉会（参加者99名）

この記事は、各クラブへの
「ガバナー月信 配信版」で
ご参照ください。

★国際ロータリー第2750地区会員数報告（2月分）★

District 2750 Membership Report February 2021

G	クラブ名	例会	会員数		
			20年7月1日	21年2月末	増減
千代田グループ	東京南	0	184	187	3
	東京芝	0	56	59	3
	東京新橋	0	56	53	-3
	東京赤坂	0	45	44	-1
	東京みなと	0	32	30	-2
	東京麻布	0	15	17	2
	東京グローバル	3	20	20	0
	東京サンライズ汐留	3	16	17	1
銀座・日本橋グループ	東京銀座	2	180	181	1
	東京日本橋	0	204	202	-2
	東京築地	0	69	69	0
	東京日本橋東	0	41	42	1
	東京中央	0	203	197	-6
	東京日本橋西	2	45	44	-1
	東京銀座新	0	79	79	0
	東京シティ日本橋	0	38	36	-2
	東京中央新	3	56	60	4
	東京あけぼの	3	20	21	1
	東京山王	1	36	38	2
京浜グループ	東京羽田	0	55	52	-3
	東京品川	1	41	42	1
	東京大森	0	35	39	4
	東京品川中央	0	30	29	-1
	東京田園調布	0	48	48	0
	東京港南マリーン	1	18	17	-1
	東京大崎	0	24	25	1
	東京蒲田	0	59	63	4
	東京京浜	0	26	25	-1
	東京田園調布緑	0	18	18	0
	東京白金	4	24	27	3
	東京高輪	2	23	20	-3
山の手東グループ	東京西	0	197	194	-3
	東京城西	4	67	66	-1
	東京西南	0	44	43	-1
	東京原宿	0	17	16	-1
	東京杉並	0	41	39	-2
	東京神宮	4	24	24	0
	東京恵比寿	4	117	111	-6
	東京広尾	3	24	25	1
	東京渋谷	0	35	36	1
	東京六本木	4	53	52	-1
	東京愛宕	3	31	31	0
山の手西グループ	東京世田谷	0	44	45	1
	東京目黒	3	33	34	1
	東京成城	1	17	17	0
	東京世田谷南	0	97	89	-8
	東京城南	0	13	14	1
	東京山の手	0	70	67	-3
	東京成城新	0	31	31	0
	東京青山	1	16	15	-1

G	クラブ名	例会	会員数		
			20年7月1日	21年2月末	増減
山の手西グループ	東京自由が丘	1	16	16	0
	東京米山友愛	4	35	37	2
	東京米山ロータリーEクラブ2750	3	34	34	0
	東京代官山	2	28	28	0
多摩南グループ	東京八王子	2	63	62	-1
	東京町田	0	57	56	-1
	東京日野	4	34	33	-1
	東京八王子西	3	111	109	-2
	東京町田・中	0	28	27	-1
	東京八王子東	1	32	34	2
	東京八王子南	4	78	77	-1
	東京町田サルビア	0	35	36	1
	東京飛火野	2	22	22	0
	東京町田東	0	30	30	0
	東京八王子北	0	43	43	0
多摩中グループ	東京立川	0	119	117	-2
	東京小金井	3	38	37	-1
	東京国分寺	0	32	30	-2
	東京三鷹	0	42	39	-3
	東京昭島	0	55	53	-2
	東京国立	1	47	45	-2
	東京立川こぶし	0	87	90	3
	東京井の頭	1	23	23	0
	東京昭島中央	0	48	48	0
	東京武蔵国分寺	2	42	42	0
	東京小金井さくら	2	25	26	1
	東京国立白うめ	1	17	17	0
	東京ピースウィングE	4	23	23	0
多摩東グループ	東京府中	0	55	54	-1
	東京調布	0	64	62	-2
	東京多摩	0	20	20	0
	東京狛江	0	14	13	-1
	東京稲城	0	28	27	-1
	東京武蔵府中	0	39	40	1
	東京たまがわ	0	20	18	-2
	東京多摩グリーン	0	29	28	-1
	東京調布むらさき	0	66	64	-2
	東京iシティ	0	18	18	0
パシフィック・ベイスングループ	Guam	4	*52	51	-1
	Saipan	4	*40	45	5
	Tumon Bay		*59	55	-4
	Northern Guam	2	*31	30	-1
	Pohnpei	4	*18	16	-2
	Palau	2	14	17	3
	Guam Sunrise	4	*15	14	-1
	Truk Lagoon		8	8	0
	Pago Bay Guam E	2	*23	25	2
国内88クラブ計			4,364	4,328	-36
地区97クラブ計			4,624	4,589	-35

★印は暫定値

国際ロータリー第2750 地区　2020-21年度　ガバナー　福原 有一

〒105-0011　東京都港区芝公園2-6-15　黒龍芝公園ビル3F　電話 03-3436-2750　FAX 03-5472-2750

Rotary International District 2750　2020-21　Governor Yuichi Fukuhara

KOKURYU SHIBA-KOEN BLDG. 3F, 2-6-15 SHIBA-KOEN, MINATO-KU, TOKYO, JAPAN 105-0011 PHONE 03-3436-2750 FAX 03-5472-2750

発行:ガバナー 福原 有一（2020−21） Yuichi Fukuhara 2021

編集・制作：ガバナー月信・年次報告委員会 委員長　渡辺 和彦（東京銀座）　副委員長　二神 典子（東京築地）　諸星 宗幸（東京八王子西）

委　員　須賀川 誠（東京銀座）　太田 智（東京中央）　髙柳 公康（東京六本木）

浅川 立憲（東京八王子西）　端 晶弘（東京立川）　竹平 時彦（東京大森）　荒木 賢一（東京南）

ホームページアドレス　https://www.rid2750.org